

大杉谷国有林からの手紙

18通目 ～シカの捕獲が始まります～

梅雨入れしてから約1箇月。

ここ大杉谷も、梅雨真っ只中で、毎日、蒸し暑い日が続き、メタボの私は、車から出ただけで、汗だくになる、山仕事にはつらい時期です。

しかし、これまでの空梅雨で乾燥していた大杉谷の木々たちにとってはまさに恵みの雨です。間伐の済んだ森では、木々たちが、思いっきり枝を伸ばし、気持ちよさそうにしています。

7月1日からは、全国安全週間が始まるので、私も、ヘルメットの紐を締め直し、安全作業で頑張ります。



雨に負けずに安全作業を心がけて

さて、今回は、6月16日に開催した「第9回大杉谷国有林におけるニホンジカ森林被害対策指針実施検討会の現地検討会」について、ご紹介します。

私たち、三重署では、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策については、平成24年度に策定した「大杉谷国有林における森林被害対策指針」に基づき実施しています。

森林被害対策指針の基本的な考え方は、①森林の成立基盤の保全、②森林後退の拡大の抑制、③天然林の更新環境の回復、④シカの個体数管理の4点です。

毎年度の事業実施に当たっては、2月に委員会を開催し、事業実施結果のとりまとめ及び翌年度の事業計画作成に当たっての留意点の整理を行うとともに、捕獲開始前に、現地検討会を開催し、捕獲に当たっての留意点の整理を行うなど、委員会で出された意見を踏まえ、事業を進めています。



粟谷小屋での活発な意見交換

今年度のシカ捕獲事業については、シカによる森林被害の拡大を防止するため、昨年度に引き続き、地池林道周辺において、わなによるシカの捕獲（目標50頭）を実施し、捕獲状況の分析、検証を行い、今後の捕獲効率の向上を図ることとしています。

具体的には、昨年度の捕獲結果を踏まえ、捕獲区域については、森林被害対策を重点的に進める地池林道周辺への隣接地域からの移動個体を考慮し、粟谷小屋までの大台林道周辺を追加しました。

わなの設置場所は、事前に自動撮影カメラを設置、データを随時整理し、シカやツキノワグマ（以下、クマという）の出没状況の確認を行い、わなの設置方法等の改善を図ります。

わなの稼働に当たっては、捕獲対象区域内には、クマやカモシカが生息していることから、錯誤捕獲やクマによる捕獲個体の捕食の防止を図ります。

また、捕獲時期については、昨年度は、9月下旬から捕獲を開始しましたが、夏場に地池林道周辺にいるシカを効率的に捕獲するため、捕獲時期を7月開始に前倒しすることとしました。

現地検討会では、今年度の捕獲事業の概要説明（捕獲に使用する囲いわな及びくくりわなの特徴、設置箇所選定の考え方、捕獲時期、捕獲したシカの埋設予定箇所、わな設置のためのセンサーカメラ予定箇所など）を受けた後、粟谷小屋において、捕獲実施に当たっての留意点等についての意見交換を行いました。

委員からは、錯誤捕獲の予防、わなの使い分け（囲いわなとくくりわなの設置箇所の選定の考え方）、捕獲個体の埋設方法、捕獲効率の分析等についての意見が出されました。

特に、クマやカモシカの錯誤捕獲について、「実施計画書では、錯誤捕獲防止について、記載されているが、万が一に錯誤捕獲した場合の対応についての記載がない。防止対策も重要だが、発生時にどのように対応するかも明記すべき」との意見が出されました。

このため、実施計画書に錯誤捕獲発生時の対応フロー及び連絡先等を明記するとともに、7月1日の捕獲従事者勉強会において、対応方法の周知・徹底することとしました。

この現地検討会を皮切りに本年度の捕獲事業が本格的にスタートします。私たちは、大杉谷の貴重な森林植生をシカの食害から守るため、今後とも、多くの皆様のご意見をお聴きしながら、森林被害対策を進めて行きますので、これからも応援お願いします。



単管とネットを使用した移動が容易な囲いわな



クマの錯誤捕獲が少ないくくりわなの説明

（発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官）